

岩崎 純一 著

『岩崎純一全集』

第九十卷 「芸術、文化、言語、文学（三の序）」

文学の序説、
総記

編纂、
監修

岩崎純一学術研究所『岩崎純一全集』編纂局

巻頭言

本巻は、『岩崎純一全集』の第九十巻を成し、岩崎の言語の著作物のうち、文学に関する全般的述作を収める。

目次

巻頭言

第一編 〇歳～十九歳

第二編 二十歳～二十九歳

旧派歌道・歌学探求の旅

和歌の担い手 国民と秘伝歌壇の人口、男系断絶

和歌の開始

和歌の詠進歴、和歌の調査研究歴

歌会への詠進

やまとうた「花筵」への参加

「うたのわ」への参加

余情会の歌会

文化事業

神社歌会

自詠和歌・歌会・歌合の記録、和歌・古典の研究

詠進歌会・歌合の特設ページ

和歌の購入・使用のご要望、和歌の制作・解説・解釈のご依頼について（祝詞・長歌・俳句・川柳・民話など他の古典も可）

和歌の詠進・提供歴、和歌・歌書・古典についての調査研究・仕事歴

和歌関連リンク

伝統和歌の会「余情会」

余情会（よせいかい）について

余情会

巫女からの和歌評の要請

歌会への和歌提供

和歌会設立の動き

和歌所の再現方針

余情会関連リンク

和歌ブログを設置しました

和歌関連の追加

第三編 三十歳～三十九歳

第四編 四十歳～四十九歳

第五編 五十歳～五十九歳

第六編 六十歳～六十九歳

第七編 七十歳以降

第八編 著作者の一部および著作権者が岩崎純一であるもの

第九編 著作権者が岩崎純一であるもの

第二編 二十歳〜二十九歳

自詠和歌・歌会・歌合の記録、和歌・古典の研究

二〇〇八年三月九日 起筆
二〇〇八年五月六日 公開
二〇一七年八月四日 最終更新



■和歌の仕事歴（詠進・制作・解説・解釈）や、歌会・歌合、私家集などを掲載しています。

■拙歌の購入・使用のご要望、新たな和歌の制作のご依頼、既存の和歌の解説・解釈のご依頼などを承っております。以下をご参照下さい。

和歌の購入・使用のご要望、和歌の制作・解説・解釈のご依頼について

和歌の詠進・提供歴、和歌・歌書・古典についての調査研究・仕事歴

公式メール（学術関係、仕事のご依頼など）
メールフォーム

※ 写真は和歌制作ノート。岩崎が撮影。

『新純星余情和歌集』全解釈プロジェクト

私が十七歳以降に詠んだ和歌を抜粋した和歌集、及び、その全解釈。

『新純星余情和歌集』（しんじゅんせいよせいわかしふ）及びその全解釈



何人かいらっしやる有志の方々が現代語訳や解説をして下さっています。

二〇〇一〜未完・生涯編纂

（過去の和歌の発掘中のため、今後項目に変更有り）

有志の方々は、古典愛好家、アマチュア歌人、現代詩の書き手などでいらっしやいます。私の歌風と関連して、ボードレール・マラルメ・ランボー（詩）、川端康成・三島由紀夫・ユイスマンス・ユンガー（小説）、モロー・シャヴァンヌ・クノップフ（絵画）、ドビュッシー（音楽）といった象徴派・ロマン派・耽美派・世紀末芸術のファンの方々が、私の和歌の翻訳者として参加しています。

自撰和歌集『新純星余情和歌集』として編纂。現代語訳者・語釈者・評者・派生歌詠者などを置き、伝統和歌の復興、古代・中世和歌所の再現、余情妖艶美・幽玄体・有心（うしん）体の体現を試みる。

芸術モデルを簡単に説明しますと、私から訳者に対しては、私の

所蔵古典に記載された（翻訳に必要なだとして訳者より要求された）学術的知見の無償提供を行う（いわば私が図書館の役割）代わりに、私の和歌が理想とする統一的歌風（余情妖艶体・幽玄体・有心体）を損なわない訳文体を求め、訳者から私に対しては、有志・無償での翻訳を負担・提供する代わりに、翻訳を担当した和歌の使用権・本歌取権（自身の芸術作品などでの使用権・改変権）を得るとともに、その翻訳文体が「芸術作品・短編文学」として私の和歌と同列に『和歌集』内に掲載されるというものです。

（いずれの場合も、我が国の著作権法に抵触しない解釈を行うこととします。）

これにより、双方の芸術嗜好（古典制作欲・芸術創造者気質と古典読解欲・芸術鑑賞者気質）の同時的満足の実現を試みています。

※ 本プロジェクトは、「岩崎純一の個人交流会・勉強会」の付属サークル（定款上の分科会に相当）の一つです。

【岩崎純一の個人交流会・勉強会】
（少人数制、会員制、1対1可、
分野別選抜制、都内・関東中心、
新規会員随時受け入れ可）

旧派歌道・歌学の
流派・家元・団体の総覧

※ 一部の歌は、「うたのわ」内の私（「純星」名義）のページにも掲載しています。

「うたのわ」内の私（「純星」名義）のページ

『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』（情報求む！）

私は、和歌の趣味が高じて『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』というものを作成しています。旧派歌道の流派や秘伝・奥義の継承者がいらっしやいましたら、まずは流派名など簡単な情報のみで結構ですので、ぜひお寄せ下さい。

また、私自身が時々（近代短歌ではなく）旧派和歌の詠進を職としておりますので（詠んだ和歌に詠進料や買い取り金額が付く形式）、同様の日本文化の継承のあり方に思い入れがある方と知り合いたいと常々思っております。

近隣諸国の定型詩文化との関連で言いますと、私としては、近隣諸国との間にある領土・領海・領空問題などのいざこざについても、

日本人として自分なりの確固たる意見を持ちながらも、それらに対して個人的に超然とした姿勢でありたいと思えますし、中国人・韓国人自身が知らないような漢詩やヒヤンガ（郷歌）までをも、異文化への敬意を払いつつ、日本人の自分が勉強してしまい、自分の人生や世界観に生かせるところは生かせばよいと考えています。

それに、これからの時代は、和歌の分野においても（文学・美術作品などと同様に）、古典の原著の保存と古典のデジタル化の両方を行いつけるしかないと思います。

和歌スケッチ（書）

和歌を詠んだ時のスケッチ（書）です。

『雪月花 拙唱交響 岩崎純一愚作選』

以下の底本に掲載されている九条良経・藤原家隆・藤原定家の和歌を左方に置き、これら各々に類似するコンセプト・情景・歌語が詠まれている過去の自詠歌を右方に置いて、三歌人と相対する一つの仮想歌合ないし三歌人へのオマージュとしました。

『雪月花 絶唱交響 良経・家隆・定家名作選』 塚本邦雄 昭和五十一年（一九七六年）三月十日第一刷 352p 読売新聞社

詠進歌会・歌合の特設ページ

上掲の歌会・歌合のうち、公開可能なものを掲載。他の歌人の方々の歌も掲載。

伝統和歌の会「余情会」



私が開闢（かいこう）という役を務めている和歌の会です。

【関連する特設サイト】

神道・仏教研究 大日本帝国陸軍岡山歩兵第十連隊・岡山近衛兵将校
子孫会（岡将会）

大日本帝国陸軍
岡山歩兵第十連隊・
岡山近衛兵将校子孫会

和歌の制作・解説・解釈、その他の古典・日本文化・民俗の研究

日本文化全般を研究しています。

特に和歌に関しては、伝統和歌の語彙・形式に沿って詠み続けています。ただし、歌風は極めて象徴主義的・唯美主義的であると周りの方々から言われています。

ネットの世界とは不思議なもので、このサイト開設以来、かなり身分不相応ながら、伝統和歌を今でも伝承する立場の方々（一般の伝統和歌愛好家・巫女・寺社関係者・旧公家・旧官家・芸妓・舞妓などの方々）と和歌をやり取りしたり、歌会・歌合を開催したりしています。

さらに、自分の十七歳以降の過去の和歌の中から自撰した歌を集めた『新純星余情和歌集』なるものを編んだり、『旧派歌道・歌学の

流派・家元・団体の総覧』を作成したりしています。（和歌のページに掲載。）

●和歌・古典のページ

●和歌の購入・使用のご要望、和歌の制作・解説・解釈のご依頼について（祝詞・長歌・俳句・川柳・民話など他の古典も可）

●和歌の詠進・提供歴、和歌・歌書・古典についての調査研究・仕事歴

●自分の和歌集『新純星余情和歌集』とその全解釈



●「うたのわ」内の私（「純星」名義）のページ

●『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』を作成中。文献上の発見や情報提供があり次第、確認・吟味して掲載。将来は、旧派歌道・歌学の事典として、どなたかに引き継いでいただく予定。

旧派歌道・歌学の 流派・家元・団体の総覧

●文化事業・イベントに和歌を提供

●日本の遊びを継承する「糸姫会」に和歌を提供

●各大学・高校・中学校の日本文化継承サークルなどに和歌の情趣や面白味を紹介する活動

●古代・中世の和歌サロン（和歌所）の再現の試みである「余情会」を設立



- 日本の伝統色の研究（着物の色目の研究、日本色彩大年表など）

詠進歌会・歌合の特設ページ

- 二〇〇八年三月九日 起筆
- 二〇〇八年五月六日 公開
- 二〇一七年三月十三日 最終更新

詠進歌会・歌合の内容（和歌・歌判など）を掲載しています。

余情会の中で開催した歌会・歌合のほとんどは、以下の余情会のページに掲載しています。



- 東日本大震災追悼和歌

- 東日本大震災追悼和歌（「うたのわ」。現代短歌も可能なサイト）
- 東日本大震災追悼和歌

- 新水無瀬恋十五首歌合

- 『新水無瀬恋十五首歌合』全歌（和歌のみ、ウェブページ版）
- 『新水無瀬恋十五首歌合』全歌判（和歌と解説、PDF版）
- 『新水無瀬恋十五首歌合』の動画（wmv, 約十一分、約50MB）

- YouTubeでも紹介。

- 共感覚歌合…「共感覚者和歌の会」（余情会の前身）として開催したもの

- 寄「聞香」共感覚歌合
- 寄「沁色」共感覚歌合

- 寄「見音」 共感覚歌合
- 寄「句色」 共感覚歌合

『源氏物語絵巻』早蕨』『枕草子絵詞』



和歌の購入・使用のご要望、和歌の制作・解説・解釈のご依頼について（祝詞・長歌・俳句・川柳・民話など他の古典も可）

二〇〇八年三月九日 起筆
二〇〇八年五月六日 公開
二〇一七年三月十三日 最終更新

私（岩崎純一）が詠んだ既存の和歌の購入・使用のご要望、私に

よる新たな和歌の制作のご依頼、他の作者が詠んだ既存の和歌の解説・解釈のご依頼などにつきましては、個人様・法人様いずれの場合も、以下のアドレスにて承っております。下方の目的別の説明をご覧いただき、ご要望・ご依頼をお送り下さいますようお願い申し上げます。

ご要望の内容や段階に応じて、見積書、納品書、請求書、領収書を発行いたします。

◆岩崎純一宛でのメールアドレス・・・office@iwasakijunichi.net

← 初めてご連絡を下さる方は、メールフォームのご使用が便利です。

（ただし、岩崎純一の全活動分野を合わせたフォームとなっておりますので、送りにくい場合は上記アドレスに直接お送り下さい。）

◆メールフォームのご利用はこちら

● その他の公式メール（学術関係、仕事のご依頼など）は、以下のページをご覧ください。

◆ 公式メール（学術関係、仕事のご依頼など）について

● 個人メール（ご質問、私信など）は、以下のページをご覧ください。

◆個人メール（ご質問、私信など）について

■一般的な説明（その他の公式メール（学術関係、仕事のご依頼など）と共通）

■私（岩崎純一）が詠んだ既存の和歌の購入・使用をご希望の場合

■私による新たな和歌の制作をご依頼の場合

■他の作者が詠んだ既存の和歌の解説・解釈をご依頼の場合

■法令に基づく表示（個人情報保護に関する法律など）

■一般的な説明（その他の公式メール（学術関係、仕事のご依頼など）と共通）

※ アドレスを直接クリックしてもメールアドレスが立ち上がらない場合は、適宜メールソフトを立ち上げてからコピー&ペーストしていただくか、メールフォームをご利用下さい。

※ 通常のメールやメールフォーム以外に、mixiやTwitterのメッセージでお送りいただいても結構です。

※ 私からの返信が無い場合は、サーバーの不具合などにより往信が届いていない可能性もございますので、お手数をおかけ致しますが、再度ご送信いただければ幸いです。

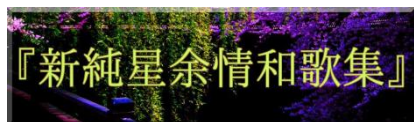
■私（岩崎純一）が詠んだ既存の和歌の購入・使用をご希望の場合

メールにてその旨をご連絡下さいますようお願い申し上げます。以下の私の和歌集や各ページに多くの和歌を収録しております。

ご使用を希望する和歌をお知らせ下さい。

ご要望の内容や段階に応じて、見積書、納品書、請求書、領収書を発行いたします。

『新純星余情和歌集』（しんじゅんせいよせいわかしふ）及びその全解釈



◆支払方法・料金体系

▼個人での鑑賞・非商用の使用であれば、多くの和歌を無料で

提供しております。

著作権法が定める私的使用や引用の範疇であれば、私に断りなくご使用下さってかまいません。

▼商用使用の場合、購入代金や使用料のお支払い等が必要になる場合がございます。メールを頂いた後、折り返しメールにて詳細をお送り致します。

■私による新たな和歌の制作をご依頼の場合

お求めの和歌のイメージやジャンルについて、ご自由にメールにてお送り下さいますようお願い申し上げます。

古語を用いた和歌の新作は、現在ではあまり需要がないと思われるますが、小説・映画・演劇などの芸術作品内や、文化行事・商業イベント・学園祭において、必要とされる場合があります。そういった場合を中心に和歌を提供させていただいております。

また、神社の巫女、伝統ある社家や門跡の子女、花街の芸妓・舞妓の方々の歌会・遊戯には、定期的に和歌を提供させていただいております。

ご要望の内容や段階に応じて、見積書、納品書、請求書、領収書を発行いたします。

ご予算、納期、お振込方法（銀行振込・郵便振替いずれも可）などのご要望がございましたら、メールにお書き下さい。

和歌の納品方法は、基本的にメールとなりますが、ご要望があればお知らせ下さいますようお願い申し上げます。

◆支払方法・料金体系

▼買い取り方式

この方式をご希望の場合、その旨をご提示下さいますようお願い申し上げます。

お買い取りいただいた後は、その和歌を使用したイベント・文化事業・遊戯会や芸術作品で生じた収益を私に分配していただく必要はございません。（ただし、著作者の明示の義務はございますので、ご了承いただければ幸いです。）

現在のところ、一首につき二万円〜五万円が相場となっておりますが、二首以上の数の和歌の制作を同時に依頼下さった場合、一首あたりの料金はかなり低くなります。

▼印税方式

複数回に渡る同様の内容のイベントなどでお使いになる新作の和歌をお求めの場合は、事実上、印税方式として扱い、三千円前後で

制作することも可能です。

一度ご相談下さいますようお願い申し上げます。

それ以外では、現在のところ、和歌制作業において印税方式は見かけず、また私からも特に要望はございません。

ただし、私の和歌を収めた歌集の制作・出版のご提案の場合は、この方式になるかと存じますので、ご相談いただければ幸いです。

■他の作者が詠んだ既存の和歌の解説・解釈をご依頼の場合

メールにてその旨をご連絡下さいますようお願い申し上げます。

上古代の歌人から近現代の故人の和歌まで、幅広く承っておりますが、生存中の歌人の和歌については、著作権の問題にご留意下さい。

特に得意としておりますのは、かつて路地に設置されたまま放置され朽ち果てつつある歌碑、地元民にも読解が難しくなった神社仏閣の隅にある歌碑、当主・家主が逝去したために読解が難しくなった家宝・秘伝の歌集・古書などの解説・解釈などです。

ご要望の内容や段階に応じて、見積書、納品書、請求書、領収書を発行いたします。

◆支払方法・料金体系

要相談ですが、著作権が切れた上古代から近世・近代の和歌についてのご依頼が中心であるため、私の和歌に関するご依頼の場合（上記）よりも低料金となっております、融通が利きます。

◆和歌の閲覧は和歌集のページにて可能です。

◆和歌関連以外のご依頼は以下のページをご参照下さい。
公式メール（学術関係、仕事のご依頼など）について
個人メール（ご質問、私信など）について

■法令に基づく表示（個人情報保護に関する法律など）

以下のページに法令に基づく表示をまとめてありますので、ご参照下さい。

●法令に基づく表示

和歌の詠進・提供歴、和歌・歌書・古典についての調査研究・仕事歴

二〇〇八年三月九日 起筆

二〇〇八年五月六日 公開

二〇一七年三月十三日 最終更新

岩崎純一のこれまでの和歌・歌書・古典関連の仕事を列挙して
います。以下のように分類しています。

【皇・宮】…皇統・旧宮家およびそれらの系統神社・門跡寺院につ
いての仕事

【公・貴・武・華】…旧公家・旧貴族・旧武家・旧華族およびそれら
の系統神社・仏閣・門跡寺院についての仕事

【巫・社】…巫女・社家およびそれらの系統神社についての仕事

【花・妓】…花街・芸妓・舞妓についての仕事

【一般】…街の路地や地方の神社仏閣にある古い歌碑、一般国民・市
民のお宅（名家・庄屋・農家）に遺る歌書・家書などの解説・解釈
などの仕事

【イ】…現代における和歌関連の文化行事・商業イベントについての
仕事や、ネット歌会

【自】…私（岩崎）自身の手による歌集や和歌関連資料

二〇一六年（平成二十八年）

【皇・宮】【一般】

◆大日女尊神社（兵庫県神戸市東灘区西岡本）の境内にある、建立

の経緯や出典が不明の歌碑（石碑）の和歌の分析・解釈を依頼され、
提供。

【巫・社】【一般】

◆御巫（みかんなぎ）家、大祝（おおほうり）家、上社・上許會（か
みこそ）家、大社（おおこそ）家のそれぞれの社家（神社の巫女を
輩出）の廃絶の危機にあたり、当該家系の巫女・子女が逝去した当
主から継承し所蔵・保存している古書の和歌・日記について、不明
な部分の分析・解釈を依頼され、提供。

家系は、ほとんどが男系断絶。女兒しか誕生していないか（四人
姉妹、五人姉妹もいる）、または成人した巫女・子女のほとんどが老
若を問わず未婚。（ただし、現在も御巫、大祝、上社・上許會、大社
の苗字を名乗る。）

概要は、『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の「巫女・
比丘尼・芸妓・女将の歌壇」の「皇統と無関係の大規模の神社・
社家の巫女」にも記載。

（写真は伏見稲荷大社。岩崎の撮影。）

二〇一五年（平成二十七年）

【皇・宮】【巫・社】【一般】【イ】

◆旧齋王（齋宮・齋院）の断絶と、現代における葵祭の「齋王代（賀茂齋院）」や齋王まつりの「齋王」、一部の神社の「齋王代・齋宮代・齋院代」としての復活、および新旧両者の立場や歌道・歌集（家集）伝授の現状について、旧齋王（齋宮・齋院）系の末裔の子女（現在は全員が非皇族）と現代齋王（齋宮・齋院）の支援者・市民より情報提供を依頼され、提供。

概要は、『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の「歌道及び勅撰和歌集の成立」の「齋王（齋宮）歌壇」・「齋院歌壇」、「巫女・比丘尼・芸妓・女将の歌壇」、「上流家庭の女性の歌壇」、「家政婦・民間女性歌壇、女子大学日本文化学科」にも記載。

齋王 (Wikipedia)

齋宮 (Wikipedia)

齋院 (Wikipedia)

齋王まつり

【公・貴・武・華】【一般】

◆男系断絶している武家の宇都宮氏（旧神職。武家に転身し、宇都宮城を本拠とした）の庶流・末裔の巫女・子女が所蔵・保存する古書の和歌や日記について、不明な部分の分析・解釈を依頼され、調査・提供。

家系・・・下野宇都宮氏、伊予宇都宮氏、豊前宇都宮氏、尾張宇都宮氏、城井宇都宮氏（現在は主に、宇都宮、伊予、城井、藤原の苗字を名乗るが、詳細不明。）

概要は、『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の「地下伝授」の「後期宇都宮歌壇」にも記載。

宇都宮氏 (Wikipedia) (家紋画像出典)

宇都宮氏 (戦国大名研究) (家紋画像出典)

二〇一四年（平成二十六年）

【巫・社】【花・妓】【一般】

◆和歌結社「女流秘伝」の廃絶にあたり、和歌の記録・保存に協力。

概要は、『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の「家政婦・民間女性歌壇、女子大学日本文化学科」の「女流秘伝」にも記載。

【花・妓】【一般】

◆山形県の花街（やまがた舞子・酒田舞娘）より、代々伝わる（近

代舞子発祥以前の）古書の和歌の解釈や、花街の路地沿いにある歌碑・古詩の分析・解釈を依頼され、提供。

二〇一三年（平成二十五年）

【公・貴・武・華】【花・妓】【一般】

◆明治女性歌人の末裔の子女より、自邸に所蔵されている各鹿鳴歌会（鹿鳴歌会、輪島鹿鳴歌会、丹後鹿鳴歌会、相模鹿鳴歌会）の歌集・資料の分析・解釈を依頼され、提供。

概要は、『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の「上流家庭の女性の歌壇」にも記載。

（写真は一九四〇年頃の鹿鳴館黒門。パブリック・ドメイン。）
鹿鳴館 (Wikipedia) (写真出典)

【皇・宮】【巫・社】【一般】

◆男系断絶している地方の神社の社家の巫女・子女や尼門跡（旧比丘尼御所）の子女より、当主・男性が遺した家宝の和歌について、不明な部分の分析・解釈を依頼され、提供。

家系・・・御巫（みかんなぎ）家、御巫（みかんこ）家、大祝（お

おほうり）家、上社・上許曾（かみこそ）家、斎田・伊豆田（いつきだ）家、青柳（あおやぎ）家、江波戸（えばと）家、北川家、一条家、吉川家、猪苗代家

概要は、『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の「歌道及び勅撰和歌集の成立」の「斎王（斎宮）歌壇」「齋院歌壇」、「巫女・比丘尼・芸妓・女将の歌壇」、「上流家庭の女性の歌壇」、「家政婦・民間女性歌壇、女子大学日本文化学科」にも記載。

二〇一二年（平成二十四年）

【自】

◆『新純星余情和歌集』全解釈プロジェクトが発足。

私の歌をご覧ください。

『新純星余情和歌集』（しんじゅんせいよせいわかしふ）及びその全解釈

【自】

◆『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』の制作を開始。

神社・社家の巫女、歌道家・旧公家・旧貴族・旧華族の子女、旧官家・門跡の子女、花街の芸妓・舞妓のご協力を賜る。

【イ】
◆NEXCO 西日本の古事記編纂千三百周年「やまとのころ周遊記」に和歌を提供。

古事記編纂千三百周年「やまとのころ周遊記」(NEXCO 西日本)

二〇一一年(平成二十三年)

【公・貴・武・華】【巫・社】【花・妓】【一般】

◆余情会の次の歌会・歌合に参加。

『新水無瀬恋十五首歌合』『江戸川橋恋二帖』『八丁堀桜川恋歌合』

『平成初花女達歌合』『新詠建久百首和歌』

歌題などの詳細はこちらです。

私の歌については、『新純星余情和歌集』にてご覧いただけます。

『新純星余情和歌集』(しんじゆんせいよせいわかしぶ)及びその全
解釈

歌会ピックアップ

■新水無瀬恋十五首歌合

版)

- 『新水無瀬恋十五首歌合』全歌(和歌のみ、ウェブページ)
- 『新水無瀬恋十五首歌合』全歌判(和歌と解説、PDF版)
- 『新水無瀬恋十五首歌合』の動画(wmv, 約十一分、約50MB)
- YouTubeでも紹介。

【イ】

◆「うたのわ」に登録、一部の和歌を掲載。(「純星」名義)
「うたのわ」内の私(「純星」名義)のページ

【自】

◆「私の和歌人生史、平成日本における伝統和歌の現状」をブログに掲載。

- 私の和歌人生史、平成日本における伝統和歌の現状(その一)
- 私の和歌人生史、平成日本における伝統和歌の現状(その二)

二〇一〇年(平成二十二年)

【公・貴・武・華】【巫・社】【花・妓】

◆余情会の次の歌会・歌合に参加。

『平成新詠天徳内裏歌合』、『湊川恋歌合』、『椎名町歌合』、『平成新撰和歌六帖』

歌題などの詳細はこちらです。

私の歌については、『新純星余情和歌集』にてご覧いただけます。

『新純星余情和歌集』（しんじゅんせいよせいわかしふ）及びその全解釈

【イ】

◆平城遷都千三百年「平城遷都千三百年 余情会歌合」に和歌を詠進

（奈良県などによる平城遷都千三百年記念事業関連の公式サイトは閉鎖）

【花・妓】【一般】

◆石川県の花街（主計町芸妓・にし茶屋街芸妓・東山ひがし芸妓）より、花街の路地沿いにある歌碑・古詩の分析・解釈を依頼され、提供。

【公・貴・武・華】【巫・社】【一般】

◆旧華族の子女の自邸に所蔵されている『類聚名義抄』の写本や近

代以降の複製本と思われる書物を調査。

写真は私の所蔵本で、特注した原本複製本。和歌を詠んだり研究したりする際にも、歌語辞典として使えるため、余情会でも重宝している。

二〇〇九年（平成二十一年）

【公・貴・武・華】【巫・社】【花・妓】【一般】

◆余情会の次の歌会・歌合に参加。

『大江戸往来恋歌合』、『日本庭園恋歌合』

歌題などの詳細はこちらです。

私の歌については、『新純星余情和歌集』にてご覧いただけます。

『新純星余情和歌集』（しんじゅんせいよせいわかしふ）及びその全解釈

【自】

◆私家集である『新純星余情和歌集』の公開を開始。

私の歌をご覧いただけます。

『新純星余情和歌集』（しんじゅんせいよせいわかしふ）及びその全

解 釈

【巫・社】【一般】

◆かるた・羽根つき・貝合・花いちもんめなど、日本古来の女性の遊びを行う「糸姫会」に和歌の提供を開始。

【皇・宮】【巫・社】

◆旧宮家の子女の方々と和歌の交流を始める。

（写真は久邇宮邦彦王一家。パブリック・ドメイン。）

久邇宮 (Wikipedia) (写真出典)

二〇〇八年（平成二十年）

【公・貴・武・華】【巫・社】【花・妓】【一般】

◆余情会の次の歌会・歌合に参加。

『寄花木女一字十二首 菖蒲、鳶尾、杜若』、『寄風月女心十二首』、『女髪十首』、『如来七首、菩薩七首』、『着物十二首 新暦』、『詠花鳥風月和歌八十四首 花二十四首、鳥二十四首、風月三十六首』、『寄調度恋二十五首』、『和漢朗詠集 恋』、『雪月花十二首』、『東十条花紅葉歌』、『祇園花見小路憂愁三首』

歌題などの詳細はこちらです。

私の歌については、『新純星余情和歌集』にてご覧いただけます。

『新純星余情和歌集』（しんじゅんせいよせいわかしぶ）及びその全
解 釈

【公・貴・武・華】【巫・社】【花・妓】【一般】

◆古代・中世の和歌サロン（和歌所）の再現の試みである「伝統和歌の会 余情会」、および、共感覚と和歌の関係を探究する「共感覚者
和歌の会」が発足し、参加。

余情会和歌所（余情会での役割）としては、私は開闢（かいこう）を務める。「共感覚者
和歌の会」は、のちに「余情会」に吸収。

【イ】

◆和歌サイト「やまとうた」の歌会に参加開始。

二〇〇七年（平成十九年）

【公・貴・武・華】【巫・社】【花・妓】【一般】

◆歌道を担った家系の子の方々（旧公家・旧貴族・旧武家・旧華族や巫女・社家や芸妓・舞妓）と和歌の交流を始める。

【一般】

◆岡山出身者や岡山に縁故のある方々（のちの糸姫会・余情会メンバーを含む）と共に、郷土岡山の和歌・歌道・歌書・郷土史、芸術家（正徹などの歌人から竹久夢二などの画家・詩人まで）についての交流を始める。

岡山市 (Wikipedia) (画像出典)

一九九六年（平成八年）～二〇〇六年（平成十八年） ※ 随時さかのぼって掲載していく予定です。

【自】

◆中学時代より和歌の研鑽に励む。

私家集にて私の和歌をご覧いただけます。

『新純星余情和歌集』（しんじゆんせいよせいわかしふ）及びその全解釈



和歌関連リンク

二〇〇八年三月九日 起筆
二〇〇八年五月六日 公開
二〇一七年三月十三日 最終更新

◆余情会関連のリンクは、余情会関連リンクをご参照下さい。

和歌データベース関連

- 和歌データベース … 国際日本文化研究センター。
- 万葉集校本データベース … 万葉集校本データベース作成委員会。

●『古今和歌集』… バージニア大・ピッツバーグ大…日本語テキスト・イチシアチブ。
●『新古今和歌集』… バージニア大・ピッツバーグ大…日本語テキスト・イチシアチブ。
●藤原定家の著作と平安朝古典籍の書写校勘に関する総合データベース… 定家本古典籍データベース研究会。
和歌研究者関連

●やまとうた… 和歌の解説・データベースのサイト。
和歌コミュニティ関連

●うたのわ… 和歌サイト。私のページは以下。
◇「うたのわ」内の私（「純星」名義）のページ

伝統和歌の会「余情会」

二〇〇八年九月六日 起筆
二〇一一年十二月十二日 公開
二〇一七年八月四日 最終更新

伝統和歌の会「余情会」

●伝統和歌詠進を主とした活動（歌会・歌合・貝合・花合）を行う和風サークルでございます。

『旧派歌道・歌学の流派・家元・団体の総覧』を作成しています。（主要作成者 岩崎純一の和歌ページにも掲載。）

お知らせ

二〇一二年以降、余情会の活動（歌会・歌合など）は、会員の減少や全国への点在などの諸事情により、ほとんどがネットを介したものとなっております。

一部の余情会会員は、以下の各研究にも参加しています。

神道・仏教研究 大日本帝国陸軍岡山歩兵第十連隊・岡山近衛兵将校子孫会（岡将会）

余情会（よせいかい）について

二〇〇八年九月六日 起筆
二〇一一年十二月十二日 公開
二〇一七年四月三十日 最終更新

余情会概要

余情会和歌所組織図

和歌の購入・使用のご要望、和歌の制作・解説・解釈のご依頼について（祝詞・長歌・俳句・川柳・民話など他の古典も可）

余情会概要

■お知らせ（二〇二二／五／一七）

現在、余情会の活動（歌会・歌合など）は、会員の減少や全国への点在などの諸事情により、ネットを介したものととなっております。

なお、和歌制作（イベント・行事・神社・祭祀への和歌詠進など）のご依頼は、従来通り承っております。

◆余情会は、基本的にいわゆる「大和言葉（やまとことば）」のみを用いた本格的な古典伝統和歌の詠進を中心として、歌会・歌合・貝合・花合などの和歌にまつわる文化的活動をおこなうサークルです。

◆以下のような方針により運営されております。

一、伝統和歌を日記・随筆などに詠み、日常生活の一部とすることを目的とします。

一、使用する語彙は、有史より近世末期までの和歌（『万葉集』、二十一大勅撰・准勅撰集、私撰集、江戸時代和歌など）の語彙を主とします。ただし、近代以降に初出の大和言葉はこれを禁じず、また、和歌史上において言及された歌病についても必ずしもこれを禁じないものであります。

一、歌会・会合等への参加の際は、（人為的な染色としての）茶髪・ピアス・その他に代表者や女房が余情会にそぐわないと判断した容姿での参加を禁止しております。なお、「和装でない服装での参加」は、禁止事項ではございません。

★一言メモ★

簡単に申しますと、場の雰囲気までなるべく当時の和歌文化に合わせることを目的としても、和歌の雰囲気実現のために現在ではお金のかかるもの（和服など、買えるか買えないかの事情が人によって異なるもの）については全く参加必須条件に入らず、和歌の雰囲気実現のためにお金のかからないもの（染髪禁止など、全ての人に課しても経済的負担が皆無であるもの）については参加必須条件に入れる、だから遵守していただけるとありがたい、ということ

◆「余情会」の呼称は、主に藤原定家をはじめとする『新古今和歌集』時代の「余情妖艶」や、茶の精神の「余情残心」などを基調とする歌風が当会歌人らに共有されていることから、名付けられたものでございます。これらの方針に基づき、和歌の余情性・有心性を演出することを主旨としております。

◆半ば本格的な和歌所の復興の試みとして、半ば遊び心として、平安・鎌倉・室町期の宮廷の和歌所にならった運営をおこなっております。

筆 岩崎純一 長満たき

余情会和歌所組織図

- 別 当（べつとう） 長満たき
- 女 房（にようぼう） 戸井留子
- 開 闔（かいこう） 岩崎純一
- 寄 人（よりうど）
- ▽ 江戸寄人 青柳香織
- ▽ 京都寄人 武田あさる
- ▽ 金沢寄人 伊田小春
- ▽ 瀬戸内寄人 戸井留子
- ▽ 巫女寄人 武田あさる

▽ 地下寄人 青柳香織

余情会関連リンク

二〇〇八年九月六日 起筆

二〇一一年十二月十二日 公開

二〇一七年三月十三日 最終更新

◆和歌全般関連のリンクは、和歌関連リンクをご参照下さい。

余情会会場関連

- 庭園へ行こう。 .. 東京都公園協会。
- 金沢市女性センター
- 東京都中央区立女性センター
- 余情会歌人（芸妓・舞妓）関連
- 向島ドットコム（閉鎖） .. 花街向島。
- 向嶋墨堤組合 .. 花街向島。
- 祇園東 .. 花街祇園東。
- 祇園東歌舞会 .. 花街祇園東。

- 先斗町のれん会 .. 花街先斗町。
- 宮川町お茶屋組合 .. 花街宮川町。
- 宮川町歌舞会（閉鎖）
- 余情会歌人（巫女） 関連

- 伏見稻荷大社
- 松尾大社
- 余情会歌人（寺院） 関連

- 東福寺
- 余情会歌人の他の所属短歌結社

- 女性短歌結社「明日香」（閉鎖）
- 女性短歌ネットワーク（閉鎖）

和歌ブログを設置しました

二〇〇九年十月十一日 起筆、擱筆、公開

和歌ブログを作りました。アドレスは以下です。トップからもリンクしてあります。

<http://ij-art-music-waka.sblo.jp/>

私がこれまでに詠んだ和歌のうち、題詠などで詠んだ昨年以降の歌を載せています。

拙著『音に色が見える世界 〳共感覚とは何か〵』に登場している和歌も、抜き出して載せています。

何人かはいらっしゃいますが、和歌を詠んでいる共感覚者の方がいらっしゃいましたら、ぜひもっと交流してみたいですね。

和歌関連の追加

二〇一一年十二月十二日 起筆、公開、最終更新

（二〇一八年七月十六日追記：現在、リンク先の岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）

前回二回分の記事に関連する追加事項です。

<http://utanowa.net/user/view/1499>（「うたのわ」。「純星」名義。）

こちらは、前二回の記事で紹介した「うたのわ」の私のページです。これらの和歌は全て私のメインサイトに載っています。

<http://iwasakijunichi.net/yoseikai/>（伝統和歌の会「余情会」。本名名義。）

こちらは、私が「開闔（かいこう）」という難しい名前前の役を今年からやっている伝統和歌の会です。ネット上に自分の伝統和歌を公開していた私に声をかけていただき、今年この役になりました。

これまでサイトは持たず、極めて閉鎖的に開催していたのを、ネット上でお見せするのも良いだろうということで、私のサイト内にページができました。

ちなみに、「開闔（かいこう）」というのは、昔、平安・鎌倉・室町時代の朝廷に設けられた和歌専門の役所「和歌所（わかどころ）」の役職の一つ（一名）で、「寄人（よりうど）」（数名）と共に和歌所の事務仕事を形成し、和歌集の編纂などを担いましたが、同時にこれらの人々は、その和歌集に自身の歌が載る優秀な歌人でなければなりませんでした。

役職名に関しては、どうやら『新後撰和歌集』以降は、「開闔」はそのまま、「寄人」は「連署（れんしよ）」という名前に置き変わっている形跡がありますが、多くの文献が散逸しており、和歌史的にもあまり解明されておりません。

ともかく、この余情会では、昔の真似事をしてしまおうという試みでもあると言えます。

非常に興味深いのが、「茶髪・ピアスでの参加禁止」という参加ルールがあることです。何を隠そう、本心では、私が入ったのは、伝統和歌仲間を増やしたいからというより、このルールに心惹かれたからであります。

私が拙著において、和歌の話と共に、日本人が生まれ持った髪の色のみままで生きることの美的価値についてわざわざ論じたことが、私が開闔をお願いされた理由でもあったようです。

そう思うと、少々照れくさくなりましたが、しかしながら、髪の色に手を加えないことは和歌を詠む際の容姿・所作の必然であるという私の考えは、皮相のものではなく、「時代への逆行ではないか」との批判を受けることを覚悟しつつ、一貫して本気で言っていることであるので、同じく「時代への違和感」から色々な短歌会を脱会してきたこれらの方々が定めたこのルールを、心から嬉しく思います。

もともと、和歌以外の日本の伝統文化についても言えると思いますが。